

参考データ集 【整理中】

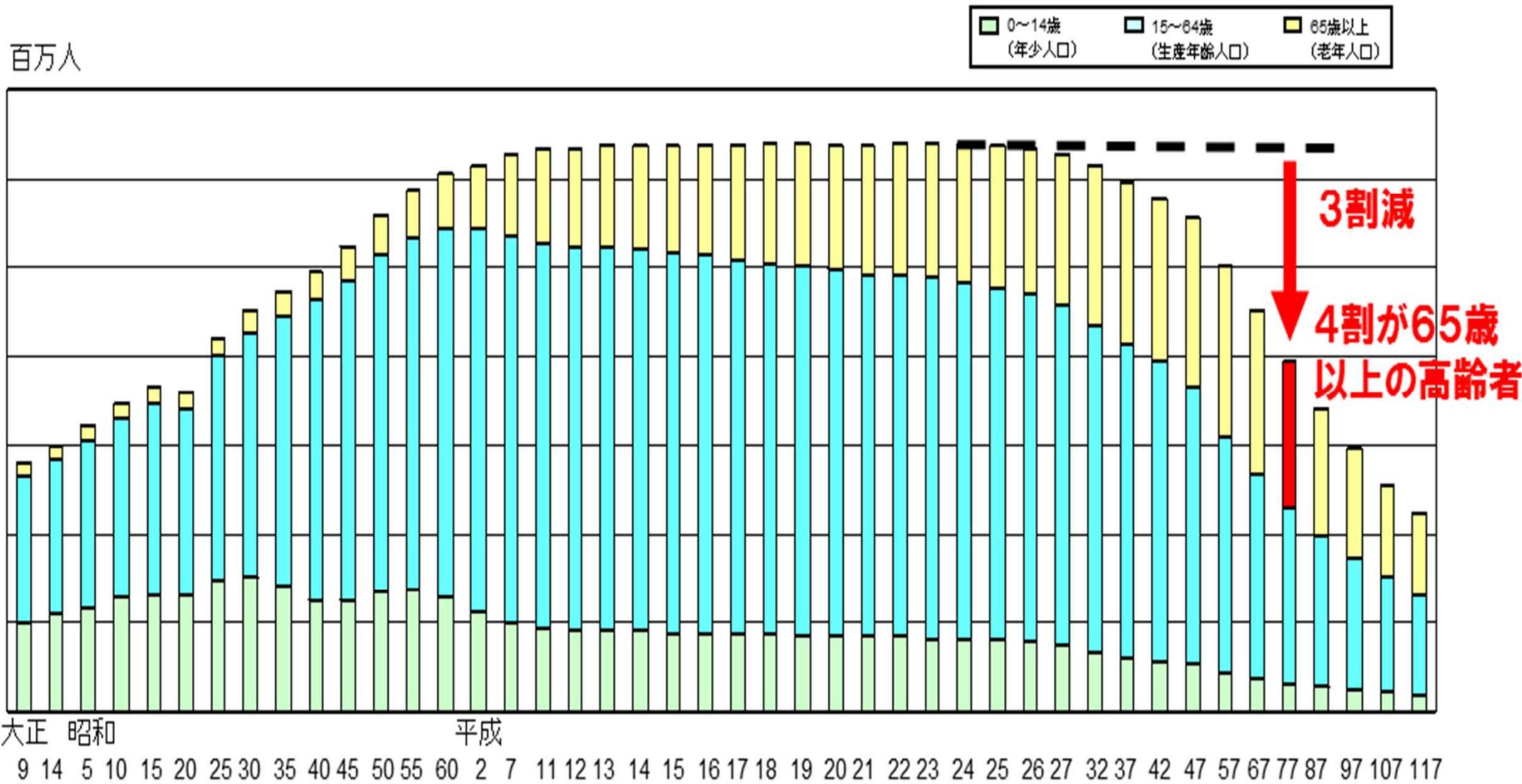
諮問参考資料（第1回教育課程企画特別部会資料）及び第4回までの各種データを元に資料を追加したもの（今後の検討に合わせて追加予定）

目次

| | | | |
|-------------------------|-------|-----------------------|-------|
| ・人口の推移や社会の変化 | 2-3 | ・英語教育の実施状況について | 34 |
| ・OECD生徒の学習状況調査(PISA)の結果 | 4-5 | ・英語力実態調査(高校3年生)の速報 | 35-40 |
| ・全国学力・学習状況調査の結果から | 6-7 | ・情報活用能力調査(概要) | 41-42 |
| ・小学校学習指導要領実施状況調査結果のポイント | 8-20 | ・情報モラル関係 | 43-44 |
| ・学習意欲・学習習慣に関するデータ | 21-24 | ・学校における指導状況と学力の関係 | 45 |
| ・高校生の自己認識 | 25-26 | ・主体的な学びに関する問題 | 46 |
| ・若者の社会参画等の意識(投票率の低下) | 27 | ・ICT環境整備と教員のICT活用指導力 | 47-48 |
| ・キャリア教育の学習に係る体験的な学習機会 | 28 | ・学校運営に関する組織的な取組と学力の関係 | 49 |
| ・若年層就労者の意識 | 29 | ・小中学校の授業時数の推移 | 50-51 |
| ・児童生徒の体力・運動能力 | 30-32 | ・各学校の教育課程の編成状況 | 52-53 |
| ・児童生徒のメンタルヘルス | 33 | | |

人口の推移と将来人口

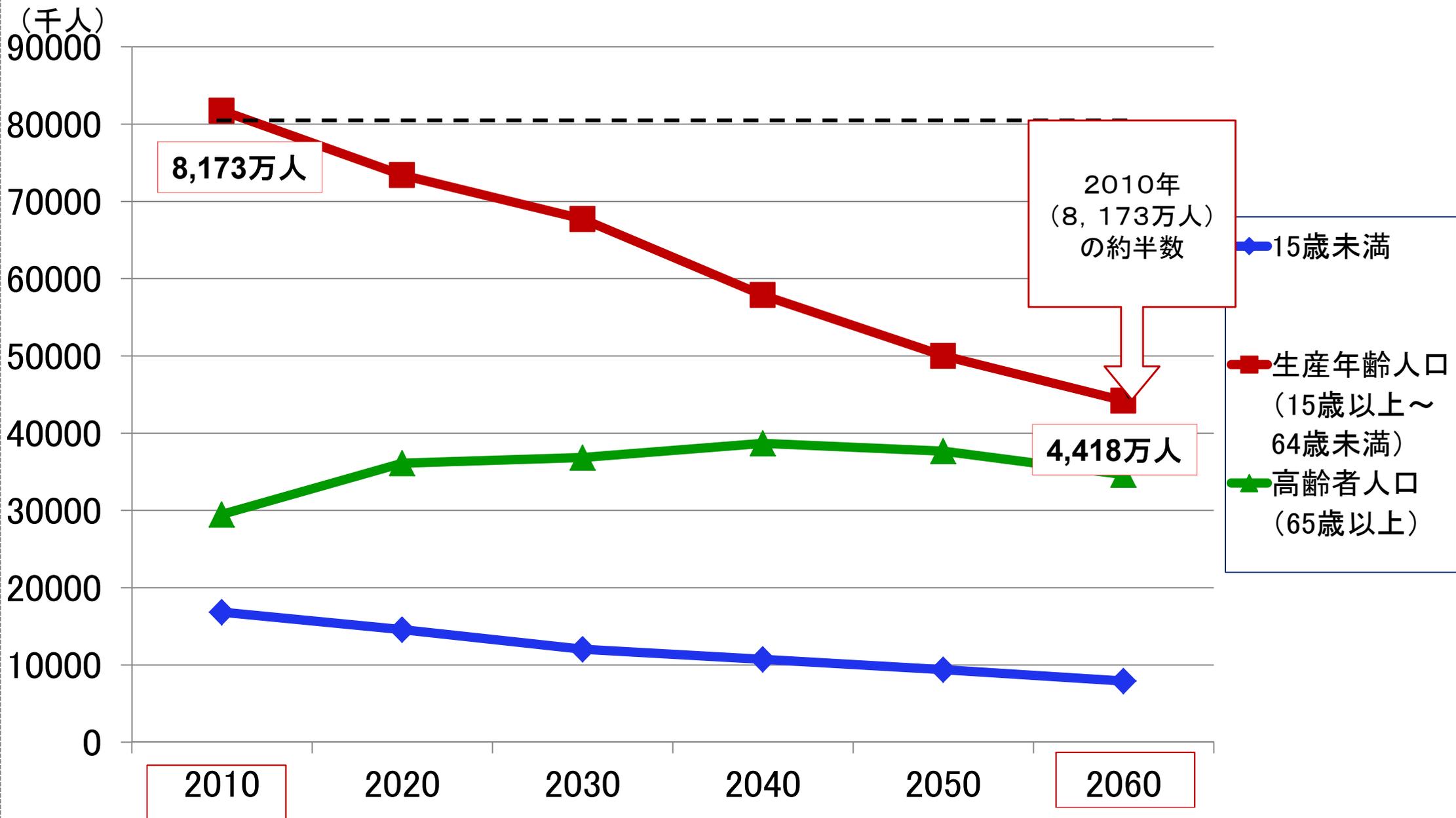
◆ 少子高齢化の進行により、約50年後には総人口が約3割減少、65歳以上の割合が総人口の約4割に達する見込み。



(出典) 総務省統計局「日本の統計2014」より文部科学省作成

生産年齢人口の推移

◆生産年齢人口も減り続け、2060年には2010年と比べ約半数まで減少する見込み。



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」

表1-1 総人口、年齢3区分(0～14歳、15～64歳、65歳以上)別人口及び年齢構造係数：出生中位(死亡中位)推計より文部科学省作成

OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の結果 —平均得点及び順位の推移—

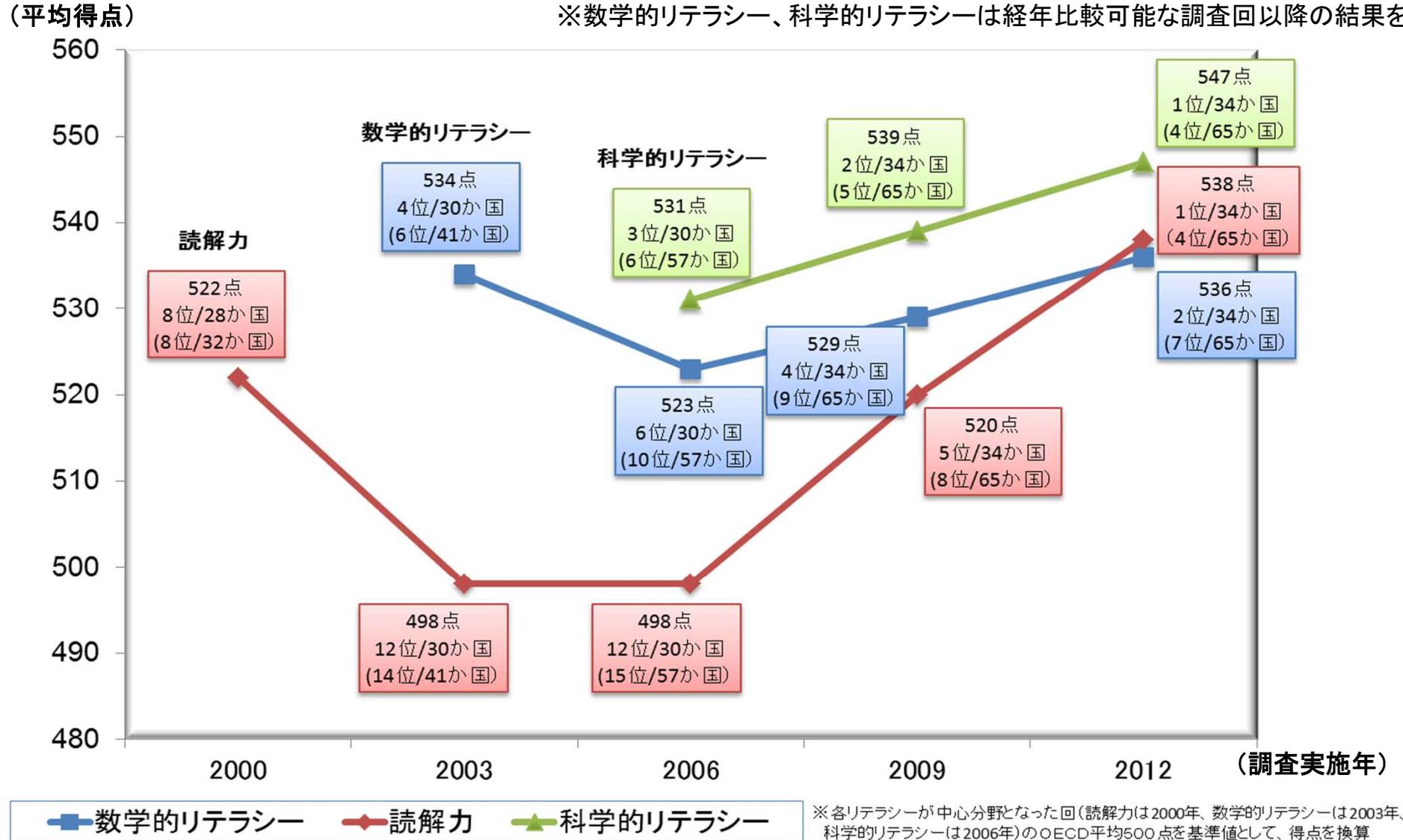
◆ 数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの3分野すべてにおいて、平均得点が比較可能な調査回以降、最も高くなっている。

平均得点及び順位の推移

※PISA調査：OECDが15歳児（我が国では高校1年生）を対象に実施

※順位はOECD加盟国中（カッコ内は全参加国・地域中の順位）

※数学的リテラシー、科学的リテラシーは経年比較可能な調査回以降の結果を掲載



(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2012）のポイント」

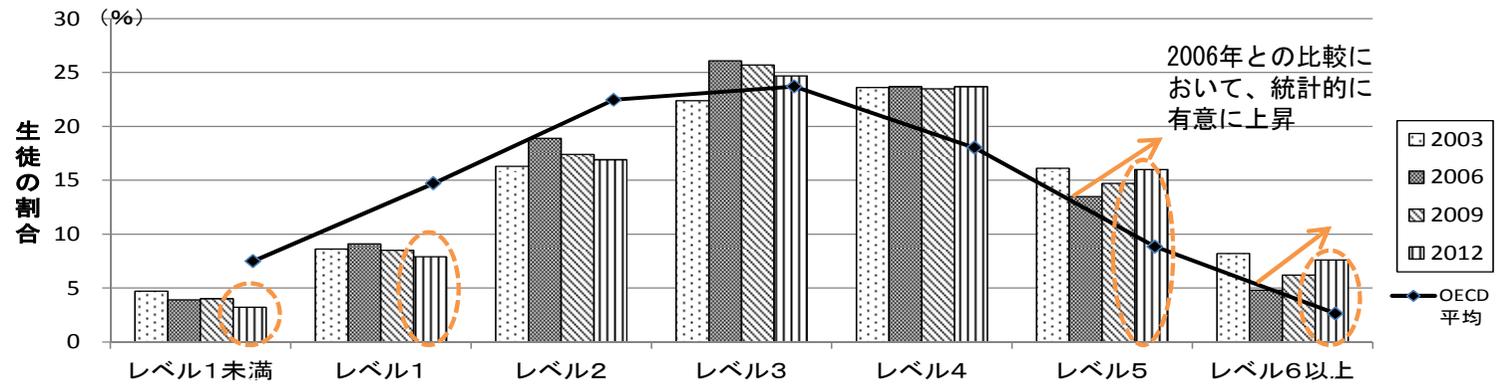
OECD生徒の学習到達度調査 (PISA) の結果 —習熟度レベル別割合の変化—

◆習熟度レベル別でも、2009年調査から引き続き、レベル1以下の下位層の割合が減少し、レベル5以上の上位層の割合が増加している。

習熟度レベル別割合の変化

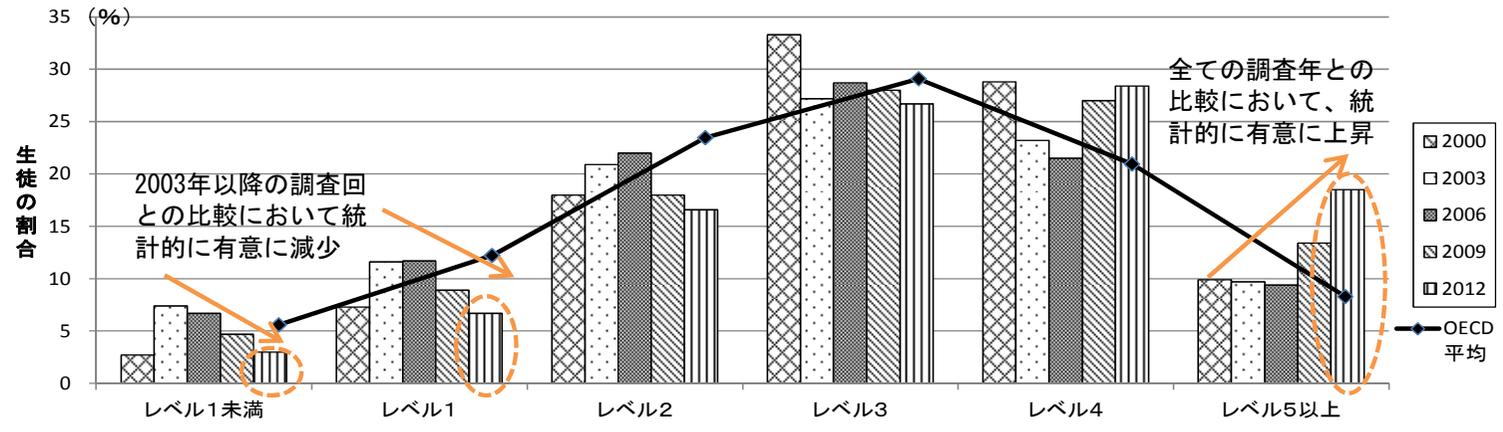
数学的リテラシー

レベル1以下の生徒の割合が2003年以降で最も少なく、レベル5以上の生徒の割合は2006年と比較して有意に増加



読解力

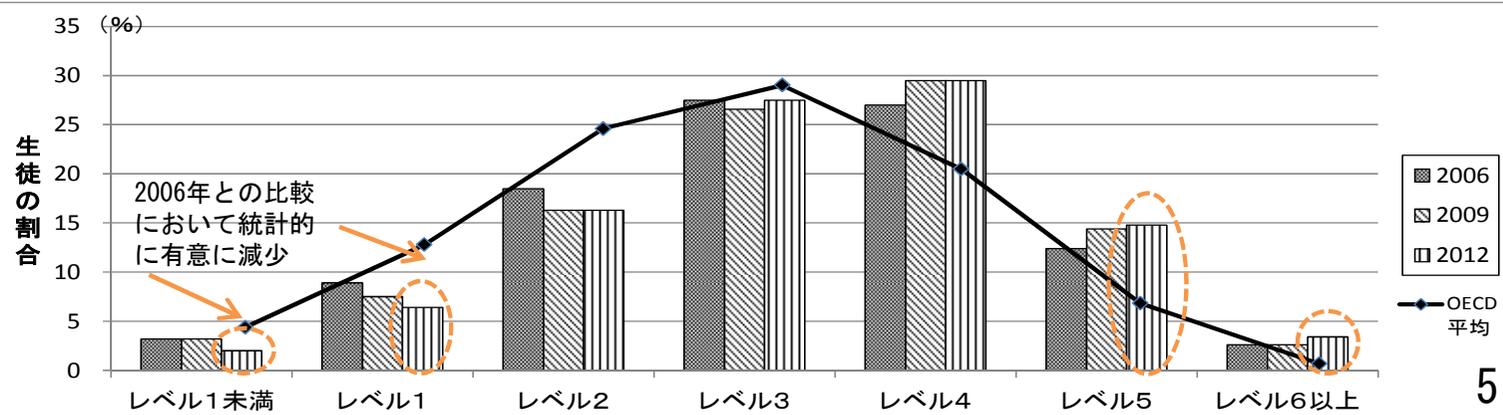
レベル1以下の生徒の割合は2000年レベルまで改善し、レベル5以上の生徒の割合は2000年以降で最も多い



※経年比較のため、レベル1=レベル1a、レベル1未満=レベル1b+1b未満、レベル5以上=レベル5+レベル6以上として記載

科学的リテラシー

レベル1以下の生徒の割合が2006年以降で最も少なく、レベル5以上の生徒の割合が最も多い



(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2012) のポイント」

平均正答率が低い県と全国平均の差の縮小 —全国学力・学習状況調査の結果から—

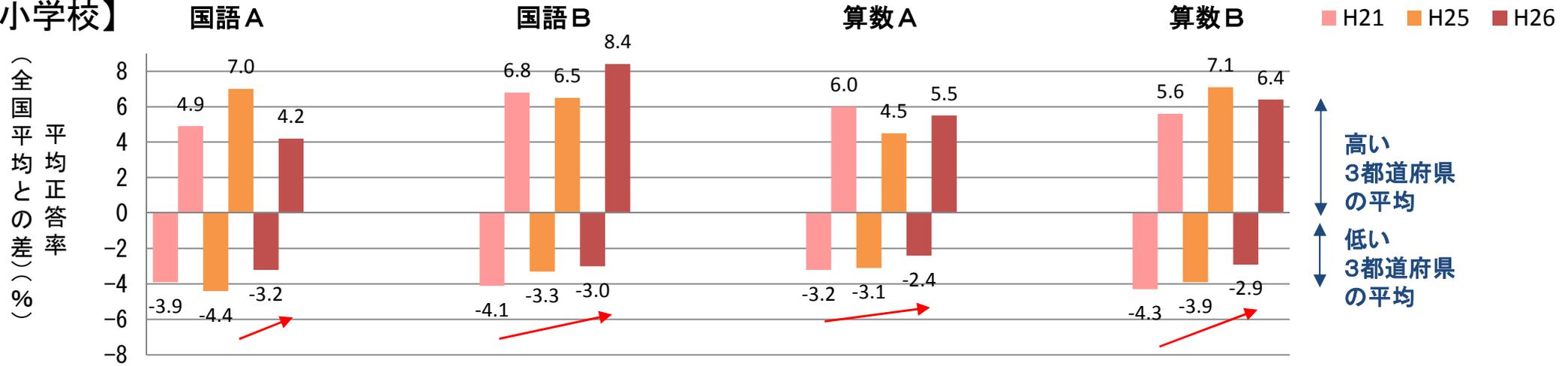
◆各年度で平均正答率(公立)が低い3都道府県の平均を見ると、全国平均との差は縮小傾向にあり、学力の底上げが進展している。

平均正答率(全国平均との差)の推移

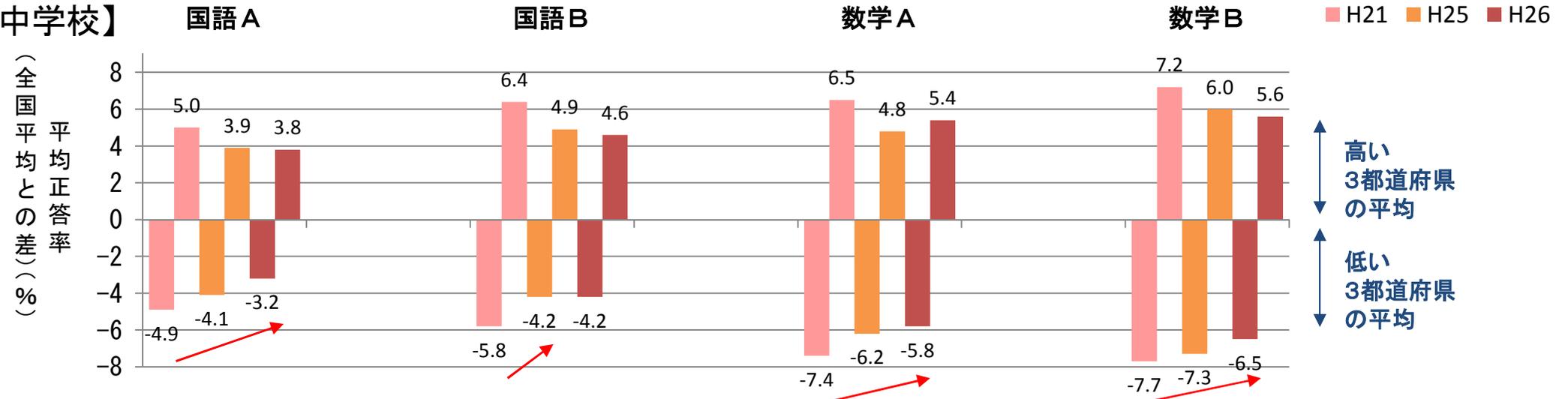
※高い3都道府県と低い3都道府県の状況

(平成21・25・26年度で、平均正答数・正答率(公立)が高い3都道府県と低い3都道府県の平均を算出)

【小学校】



【中学校】



(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)」

教科に関する調査結果において見られた課題 ー全国学力・学習状況調査の結果からー

◆学力は改善傾向にある一方で、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて課題が指摘されている。

小学校

<国語>

- 立場や根拠を明確にして話し合うことについて、発言をする際に一定の立場に立ってはいるが、**根拠を明確にした上で発言をする点**に、依然として課題がある。

<算数>

- 図を観察して数量の関係を理解したり、数量の関係を表現している図を解釈したりすることに課題がある。
- 数量の大小を比較する際に、**根拠となる事柄を過不足なく示し、判断の理由を説明すること**について、改善の状況が見られる設問もあるものの、依然として課題がある。

中学校

<国語>

- 自分の考えを表す際に、根拠を示すことは意識されているが、**根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する点**に課題がある。
- 文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて、説明する際に、文章や資料から必要な情報を取り出してはいるが、それらを用いて**伝えたい内容を適切に説明する点**に、依然として課題がある。

<数学>

- 記述式問題は、特に**確率を用いた理由の説明、グラフを用いた方法の説明**に課題がある。
- 図形の性質を証明することについて、着目すべき図形を指摘することは良好であるが、**方針を立て、証明を書くこと**に課題がある。